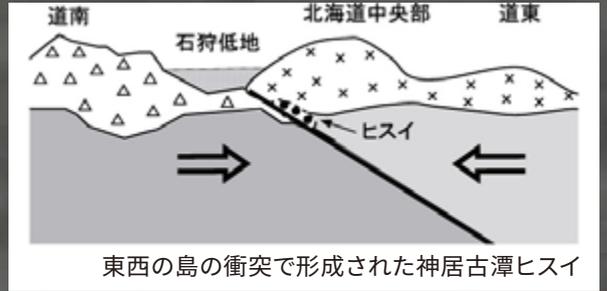


# 日本を代表する石は<sup>ヒスイ</sup>翡翠

合地 信生



斜里朱円周堤墓群から出土した青海・糸魚川産ヒスイ玉

日本の国花は桜、国鳥は丹頂鶴です。では石は？ということで日本鉱物科学会が選定を行い、昨年の9月に翡翠(ヒスイ)に決まりました。深い森を思わせる透きとおる緑色が美しいヒスイは大変魅力的な石で、縄文時代の勾玉など古い時代から愛されてきた宝石です。ヒスイは岩石研究の分野でも地下の温度圧力を教えてくれる重要な鉱物で、私の大学時代からの研究テーマでした。

宝石にはダイヤモンドやサファイヤなど1つの大きな結晶の場合と、ヒスイやトルコ石など小さな結晶の緻密な集合で宝石になっている場合があります。考古学ではヒスイは硬玉(ヒスイ輝石)と軟玉(カルシウム角閃石)に区分されることがありますが、今回は一般的にヒスイと言われているヒスイ輝石が主役です。

緻密なヒスイ輝石はどのような場所に産するのでしょうか？ 1番力がかかるプレートの衝突場所です。世界のヒスイ産地はインド大陸がアジア大陸に衝突したビルマ(ミャン

マー)と大西洋のカリブプレートが北アメリカ大陸に衝突したグアテマラが有名です。グアテマラのヒスイはインカ文明で装飾品として広く使われました。

では日本ではどのような場所に産するのでしょうか？同じく、プレートの境界の圧力がかかる場所です。約3億年前、アジア大陸に太平洋が衝突した新潟県の青海・糸魚川のヒスイが有名で、縄文時代には貴重な装飾品として全国に流通していましたし、現在も宝石として珍重されています。北海道は1億年～5千万年前に東西の島が衝突して現在の形になったと考えられており、圧力がかかった境界にあたる神居古潭構造帯からもヒスイ輝石は産します(図)が、宝石としての価値は低いようです。

宝石になるヒスイ輝石とはどのようなものなのでしょうか？ 鉱物学での純粋ヒスイはシリカ、アルミニウム、ナトリウムで構成され、白色をしており透明感が乏しい鉱物です。宝石

のヒスイは不純物のカルシウムや鉄、マグネシウムが加わり、緑色の透明感のある鉱物になっています。ヒスイは神秘的な緑とともに謎の多い鉱物です。

斜里の遺跡からも青海・糸魚川産のヒスイの玉が出土しています。また身近に観察可能なビルマ産ヒスイは知床第一ホテルの大浴場の床と壁に貼られています。また、博物館講座では「身近な宝石細工」の材料としてグアテマラ産ヒスイを使ってきました。

北海道の岩石はアポイ岳に産するカンラン岩、また北海道の鉱物は中軸部の神居古潭帯の蛇紋岩中に産する砂白金です。いろいろな石に親しみ、北海道の形成との関係を調べてみるのも楽しいでしょう。

発行 2017年3月24日  
発行所 知床博物館協力会  
099-4113北海道斜里郡斜里町本町49  
斜里町立知床博物館内  
TEL: 0152-23-1256 FAX: 0152-23-1257